
授業中のLovesong★

† 黒咲蓮夜 †

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

授業中のLove song★

【Nコード】

N1130I

【作者名】

十黒咲蓮夜十

【あらすじ】

いつもと変わらない日常を過ごしていた中学2年の前原深季。マエハラミキしかし、彼女の隣の席の男子、岬柄拓未サキツカタクマの歌によって、彼女の運命が変わっていく。

(前書き)

恋愛モノです。
短編ですW

これは、私の隣の席の彼の話――

ある日の4時間目、浜北先生の社会科の授業中。

私はいつものように適当にノートを取り、適当に話を聞いて、適当な時間を過ごしていた。

いつもなら、何事もなく、後20分でチャイムが鳴り、待ちに待ったお弁当の時間が来る。

でも、この日は少し違った……。

私がふと、窓の外を見ようと横を向いた時、微かな……それでもはつきりとした歌が聞こえた。

私はその歌声の主が誰かすぐにわかった。

サキツカタマ

岬柄拓未……出席番号18番、得意科目は音楽と体育と国語……だと思う。

いつもみんなの中心にいて、クールだけど、クラスの人気者。

顔はかなりかっこいいから、女子にも大人気。

頭も良くて、顔もかっこよくて、運動神経も抜群の、まさに理想の男子って感じの子。

その子の方から聞こえる歌。

口元に目をやると、聞こえる歌詞の通りに動いていた。
間違いなく岬柄君が歌ってる。

でも……知らない歌。

聞いたこともない曲……だけど、すごく綺麗だと思った。
とても綺麗な……恋の歌。

私は授業そっちのけで聞き入ってしまった。

そして、お弁当も食べ終わり、午後の授業と掃除、帰りの会が終わった。

職員会議のため、部活も無かったから、私は岬柄君を待つことにした。

待つこと数分後、岬柄君が一人で出てきた。

私は勇気を出して声をかけてみた。

「岬柄君！」

「・・・あんたは・・・隣の席の前原だよな？俺になんか用？」

「あのさ・・・一緒に帰らない？」

「・・・別にいいけど。」

「ありがと！じゃあ、行こう！」

「うん・・・」

そうして私は、初めて話す岬柄君と一緒に帰ることになった。

しばらく歩いた河原の道。

「ねえ、岬柄君。」

「なに？」

「今日の4時間目・・・歌、歌ってなかった？」

私は思い切って聞いてみた。

「っ！？・・・聞いてたの？」

岬柄君はすごく驚いた顔で言った。

「うん・・・聞こえちゃったんだ。・・・ごめんね。」

「・・・いや、俺が悪いんだからいいよ。」

「・・・うん・・・でね、あの歌、なんていう名前？私聞いたことなくて・・・。」

「ああ・・・曲名なら無いよ。」

「え！？なんで？・・・じゃあ誰の歌？」

「・・・俺の歌だよ。」

「・・・え？」

「だから・・・俺が作った歌なんだ。」

「・・・・・・・・嘘!？」

私は思わず叫んでしまった。

だって、あのクールな岬柄君が、あんな綺麗な恋の歌を作るなんて
思えなくて・・・。

「ほんと・・・？」

「うん・・・。」

「曲も詩も作ったの？」

「そうだよ・・・。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

私は、黙ってしまった。

岬柄君も、顔を真っ赤にして黙った。

どれくらいの時間が過ぎたのだろう・・・。

「・・・あのさ。」

「・・・な、なに？」

「あの歌・・・歌ってくれないかな？」

「えっ!？」

「・・・私、あの歌好きになっちゃったんだ・・・。」

「・・・ほんと？」

「うん・・・すごい綺麗な歌だと思う。」

「・・・ありがと・・・じゃあ、歌詞教えてあげるから、一緒に歌っ
てくれる？」

「え・・・うん! 私なんかでよかったら、一緒に歌いたい!」

「じゃあ・・・はいこれ、歌詞。」

「え・・・わあ! 2番までちゃんとあるんだ!」

「うん・・・いっそだから作っちゃおうと思ってさ。」

「ちゃんと覚えられるかなあ・・・。」

「大丈夫、俺がちゃんと教えてあげるから。」

そう言ってニッコリ笑う岬柄君・・・初めて見た可愛い笑顔。

「じゃあ、まず俺が歌うから、聞いててね？」

「う、うん！」

そうして歌いだす岬柄君。

私はまた聞き入ってしまった。

彼の綺麗なテノールは、なんの迷いもない純粹無垢な少年のそれで・・・私の心を溶かしていくー。

この日から私は、毎日の登下校を彼と共にし、学校でも彼と一緒に、いつも歌を教えて貰っていた。

私の中学生生活は、あの日彼の歌を聞いたことによって、百八十度変わったのだった。

さて、今回はここでおしまいですが、この出来事をきっかけに私達2人の関係がどう発展したか・・・それはまた別の話で――。

「桜舞う中で君と出会ったあの日

初めて思った誰かと一緒にいたいなんて

咲き誇る花も 小さな蕾も 全部が全部君の光なんだから

寂しい時には 僕のとこにおいでよ

儚く散りゆく 桃色の花は 冷たい雨の中で光る

あの日に戻れたら また二人で歩きたいよね
桜咲くあの桃色の道を

— E N D —

└

(後書き)

如何でしたか？（少しだけ変えましたw
最後に乗っている歌の歌詞には、
ハガレンの「LET IT OUT」？を、
いろいろぬかして合わせると、
歌えますw。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1130i/>

授業中のLovesong★

2010年11月5日14時02分発行